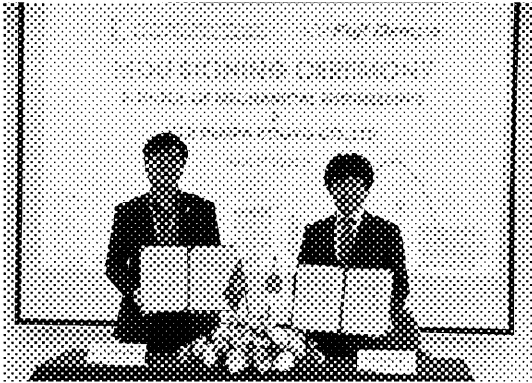


ハノイ工科大と連携

富士電波 ベトナム人材獲得

富士電波工業（大阪市淀川区、横島俊夫社長）は、ベトナム人材の獲得を目指してベトナムのハノイ工科大学（HUST、ハノイ市）と連携協定を結んだ。まずはHUSTの機械工学部から学生を受け入れ、同社の高周波誘導炉などを使った研究をサポート。共同研究なども検討する。期間は3年だが、延長する方針。将来は他の中小企業などとも連携に加えることを視野に入れる。



高周波誘導炉で共同研究

協定では、毎年2人1月間、富士電波工業が（業体験）で受け入れ程度の学生を最長3カインターンシップ（就）。HUSTの学生は

両者による連携協定調印式

同社の滋賀工場（滋賀県湖南市）などで工業炉を使い加熱実験を行う。HUSTでは素材を加熱した場合のコンピュータシミュレーションは行えるが、実験などは整っていない。そのためシミュレーション値と実測値を比較するなどして論文執筆に役立てる。

最初の学生は2026年2月ごろに来日する予定で、富士電波が滞在費などを負担。学

生には研究のほか、職材不足が深刻化する中、大企業による理系学生の採用意欲が高まっており、中小企業の人材獲得は厳しい。また、インターン生には研究の幅を広げるために、協定の更新のタ

同社は6年前にHUSTの卒業生2人を採用し、現在は設計業務などを担っている。人材としてベトナム人のさらなる採用を検討しており、今回の協定にはHUSTによる技術人材の紹介なども含

また、インターン生の研究の幅を広げるために、協定の更新のタ

また、インターン生

また、インターン生